

港湾における高潮リスク低減方策検討委員会（第2回）議事概要

1. 主な議事

- 事務局より、第1回検討委員会での意見を基に高潮対策の技術的な検討及びフェーズ別高潮・暴風対応計画の考え方について説明した上で、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

（電気系設備の浸水対策）

- 電気系設備の嵩上げ事例については、どのような考え方に基づいて高さが決められたのかを確認する必要がある。

- コンテナターミナルでは電気系設備以外でも、給電ケーブルのケーブルリールガイドが破損した例もあり、ターミナルの早期再開の観点で、事前対策として行っておくものと応急復旧等の事後対策で十分なものに分類して整理すると良い。

（コンテナの流出防止対策）

- 台風24号とあわせて台風21号についても対策と被害の実態の整理は必要である。

- ラッシングをした場合でも、5段積だと倒壊し、3段積だと被害はなかったという事例から、まずは段落としを行い、それを固縛するという考え方が対策の基本となる。

（フェーズ別高潮・暴風対応計画）

- 実際に被害が大きかった大阪湾で検討することで改善点等が出てくるので、大阪の検討事例を参考にすれば他の港湾においても策定がスムーズになると考えられる。

- 「高潮」と「暴風」で対応する対策に違いがある点に留意すべきである。

- フェーズ別高潮・暴風対応計画の策定にあたっては、各港における船舶に対する各種体制との整合性を考慮する必要がある。

- 伊勢湾の検討では、各事業者は台風最接近の半日前ぐらいに避難の指示をし

ているなかで、防災担当の従業員の避難は別途対応しているのが一般的であるとしていることから、計画の策定の参考にしてほしい。

○台風予報の精度は、5日先だと、不確実性が高いので、事前にどの対応を行うのか検討する際に留意が必要である。